

豊川水系流域治水プロジェクト2.0の 取り組み状況

令和8年 3月 6日

国土交通省 中部地方整備局

豊橋河川事務所

流域治水プロジェクト2.0

令和7年4月公表版

～流域治水の加速化・深化～

○ 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

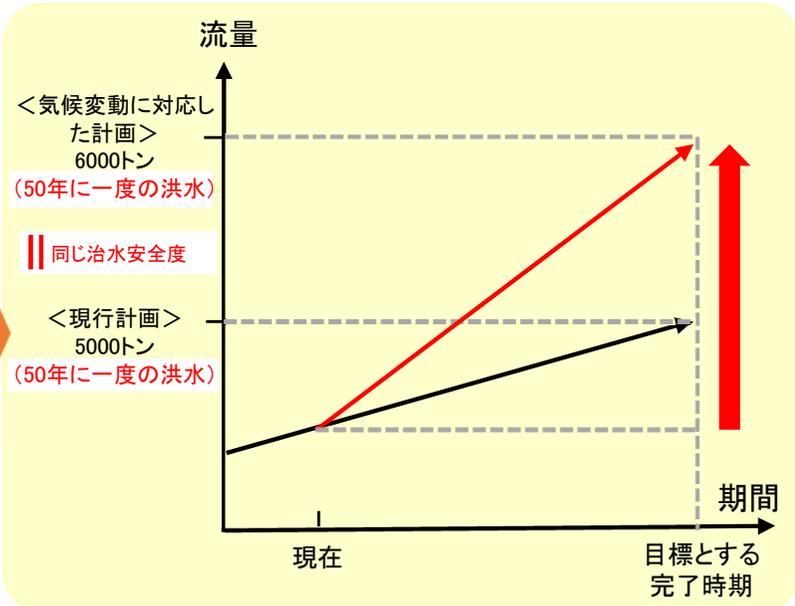
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

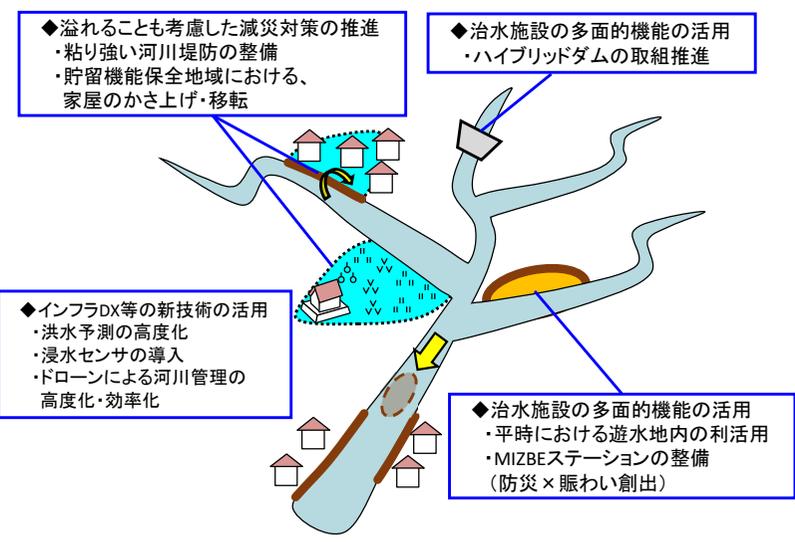
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

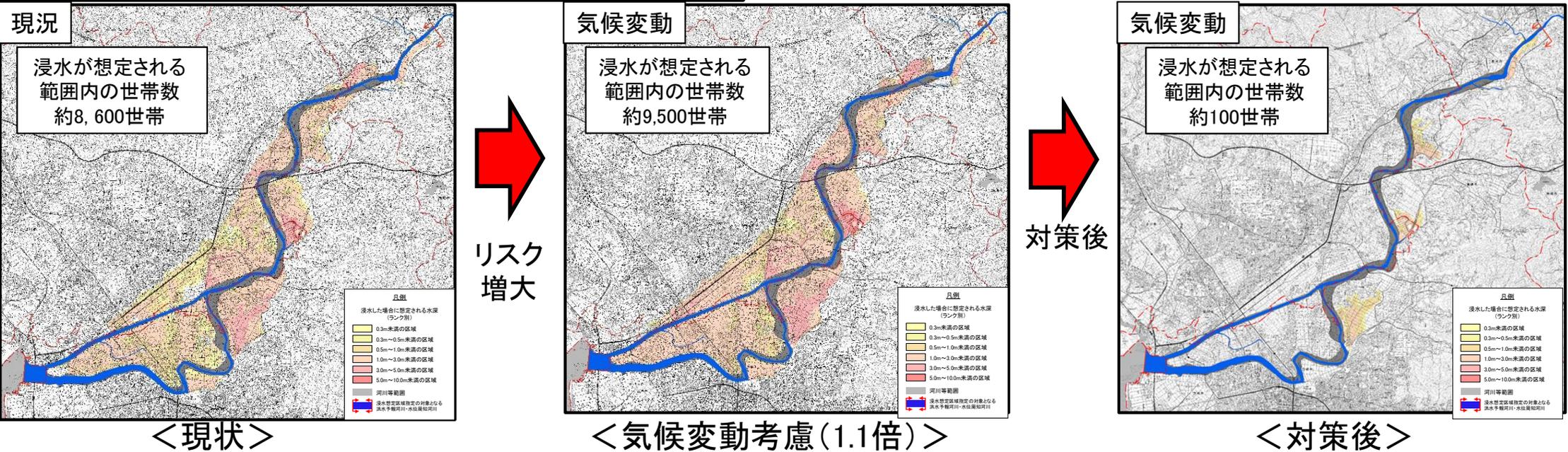
同じ治水安全度を確保するためには、
目標流量を1.2倍に引き上げる必要

※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、
様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

○整備計画で目標としている戦後最大(昭和44年8月)洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、豊川流域では浸水が想定される範囲内の世帯数が約9,500世帯(現況の約1.1倍)になると想定され、事業の実施により、浸水被害が約100世帯に軽減される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大



- ▶ 上図は、豊川の国管理区間について、河川整備計画規模及び気候変動考慮後の外力により浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- ▶ 上図<対策後>は、豊川の流域治水プロジェクト2.0に位置付けている、国が実施する氾濫を防ぐ・減らす対策を実施した後の状況を勘案したうえで、氾濫した場合の浸水の状況を、シミュレーションにより予測したものです。
- ▶ なお、国管理区間以外における本・支川の氾濫や内水による氾濫等は考慮されていません。
- ▶ 具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります、それにより、想定される浸水範囲も変更となる場合があります。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。それに伴い、上記の浸水範囲も変更となる場合があります。

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の昭和44年8月洪水規模に対する安全の確保 豊川流域

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約9,400世帯の浸水被害を解消	河道掘削:約66万m ³ 樹木伐採:約11万m ² 事前放流(利水ダム等4ダム)	順次実施
被害対象を減らす	市町村	立地適正化計画に基づく防災の取組	立地適正化計画に基づく「防災指針」の作成、居住誘導等	概ね30年
被害の軽減・早期復旧・復興	市町村	実効性ある避難により、被害を軽減	避難所の見直し検討等	概ね30年
	市町村	排水による浸水被害の低減・早期復旧	移動式排水ポンプの配備	概ね30年

【目標②】市町における浸水被害の軽減(平成23年9月洪水が再来しても浸水被害を防ぐ取組(豊川霞堤地区浸水被害軽減対策計画))

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	各霞堤地区の浸水被害の軽減	小堤の設置	概ね10年
被害対象を減らす	豊橋市、豊川市	霞堤地区が洪水時に浸水する可能性のある地区であることの周知	建築確認申請時の周知	概ね10年
被害の軽減・早期復旧・復興	国	霞堤地区内の浸水状況をリアルタイムで把握	CCTVカメラ・簡易水位計の設置	概ね10年
	国	適切な避難行動の促進	浸水開始水位等の設定	概ね10年

豊川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図】

令和8年3月更新版

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、以下の取り組みを一層推進していくものとし、更に豊川の国管理区間においては、**気候変動(2℃上昇)下でも目標とする治水安全度を維持するため、河川整備計画で目標としている昭和44年8月洪水に対し2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水において、浸水被害を軽減させることを目指す。**

○霞堤対策や浸水リスクが高い地域の「安全なまちづくり」に向けた立地適正化計画の推進、**利水ダム等の有効活用や河道掘削・樹木伐採等の河道改修**、多自然川づくりの推進、霞堤地区浸水被害軽減対策計画等のソフト対策の整備を実施する。

※大臣管理区間以外、県・市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。



愛知県

- 河道掘削(緊急河川浚渫推進事業を含む)、樹木伐採
- 砂防関係施設整備
- 治山施設の整備、森林整備・保全

設楽町

- 緊急浚渫推進事業等

新城市

- 緊急浚渫推進事業等

豊川市

- 緊急浚渫推進事業等

豊川下流圏域

河川整備計画策定済・公表中

- 森林整備・保全
- 緊急浚渫推進事業(白鳥川・宝川等)

事前放流(利水ダム等4ダム)

豊川上流圏域

河川整備計画策定済・公表中

豊橋市

- 緊急浚渫推進事業等

豊川市

- 森林整備・保全

設楽町

- 河道掘削 樹木伐採

豊橋市

- 下水道(雨水)整備 農業用排水機場の新設及び更新 森林整備・保全

豊橋市

- 霞堤対策(賀茂・金沢) 小堤

豊川市

- 下水道(雨水)整備 雨水貯留施設

豊橋市

- 霞堤対策(牛川・下条) 小堤

豊橋市

- 移動式排水ポンプの配備・運用(豊橋市)

豊橋市

- 放水路の機能保全・最大活用検討

豊橋市

- 緊急浚渫推進事業(朝倉川)

黒字：流域治水プロジェクト(現行)
赤字：流域治水プロジェクト2.0からの追加対策
直轄メニューは

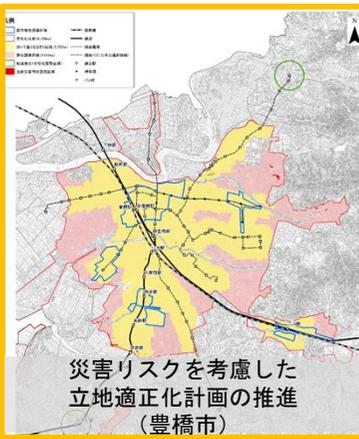
凡例

- 〓 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 〓 被害対象を減少させるための対策
- 〓 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- 事前放流を実施するダム
- 実績浸水範囲(戦後最大の昭和44年8月洪水)
- 〓 大臣管理区間

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ソフト対策の推進

【全体】	・ 土地利用規制・誘導(災害危険区域等)	・ 洪水プッシュ型情報配信
	・ 防災講座・防災訓練	・ 住民の水害リスクに対する理解促進の取組
	・ 避難場所や経路に関する情報周知	・ 水害リスク情報の空白域の解消
【豊橋市、豊川市、新城市、設楽町】	・ ハザードマップの作成・周知	【愛知県】
	・ 出前講座の実施	・ 洪水浸水想定区域図の作成
【豊川市、新城市】	・ 立地適正化計画に基づく「防災指針」の作成、居住誘導等	・ 土砂災害警戒区域等の指定・周知
		・ 土砂災害リスク情報の現地表示
【豊橋市・豊川市】		【国交省】
・ 霞堤地区浸水被害軽減対策計画	・ 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成	・ 排水作業準備計画の検証
・ 水害リスクの高い区間の監視体制の整備	・ 水害リスクライン配信	・ 三次元管内図による浸水想定の見える化
		・ 内外水統合の水害リスクマップの作成
【豊橋市】	・ 高台におけるまちづくりの推進(土地区画整理事業)	
	・ 災害リスクを考慮した立地適正化計画の推進	
	・ 移動式排水ポンプの配備・運用	
【新城市】	・ 防災講演会の実施	



氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し ($^{\circ}\text{C}$上昇下でも目標安全度維持) <具体の取組> ・河道掘削、樹木伐採の推進 ・霞堤対策(小堤、支川背水対策)4箇所 ・緊急浚渫推進事業 ・砂防関係施設整備</p> <p>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 <具体の取組> ・下水道(雨水)整備 ・流域貯留池事業 ・治山施設の整備 ・森林整備・保全</p> <p>○あらゆる治水対策の総動員 <具体の取組> ・設楽ダム建設</p> <p>○多面的機能を活用した治水対策の推進 <具体の取組> ・放水路の機能保全・最大活用検討</p> <p>○既存ストックの徹底活用 <具体の取組> ・放水路の機能保全・最大活用検討 ・利水ダム等4ダムにおける事前放流等の実施、 体制構築</p>	<p>○溢れることも考慮した減災対策の推進 <具体の取組> ・立地適正化計画に基づく「防災指針」の作成、 居住誘導等 ・災害リスクを考慮した立地適正化計画の推進 ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等) ・高台におけるまちづくりの推進(土地区画整理 事業)</p>	<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2°C上昇下でも目標安全度維持) <具体の取組> ・排水作業準備計画の検証</p> <p>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 <具体の取組> ・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進 ・「みずから守るプログラム」の普及促進 ・移動式排水ポンプの配備・運用 ・防災講座・防災訓練・防災講演会</p> <p>○溢れることも考慮した減災対策の推進 <具体の取組> ・霞堤地区浸水被害軽減対策計画 ・避難場所や経路に関する情報周知</p> <p>○インフラDX等の新技術の活用 <具体の取組> ・洪水プッシュ型情報配信 ・水害リスクライン配信 ・水害リスクの高い区間の監視体制の整備 ・土砂災害リスク情報の現地表示 ・三次元管内図による浸水想定の見える化 ・内外水統合の水害リスクマップの作成 ・洪水浸水想定区域図の作成 ・土砂災害警戒区域等の指定・周知</p>

※赤字：流域治水プロジェクト1.0からの追加対策

豊川水系流域治水プロジェクト2.0 【位置図】

令和8年3月更新版

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

●グリーンインフラの取り組み 『下流域の多様な生物の生息環境の再生と環境学習による地域振興』

- 湿地や干潟が少なくなった日本では、豊川河口の干潟やヨシ原は渡り鳥にとって貴重な場所・中継地となっている。また豊川の河口干潟は全国有数のアサリ稚貝の生息場所であり、豊川本川の特徴のひとつとなっている河畔林は、鳥の巣や、魚のかくれ場になるなど、生物の集まる豊かな自然環境となっている。
- 豊川河口域の減少した干潟を再生することにより、多様な生態系の回復を図るため、令和10年度までにアサリやハマグリ等の底生生物が生息できる河川環境の再生や、環境学習・自然体験の場の創出など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。
- 豊川が本来有していたヨシ原を再生することにより、多様な生態系の回復を図るため、令和10年度までにオオヨシキリ等の鳥類が生息できる河川環境や自然河岸のある景観の再生など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

●自然環境の保全・復元などの自然再生 干潟再生、ヨシ原再生

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み 環境学習、自然観察

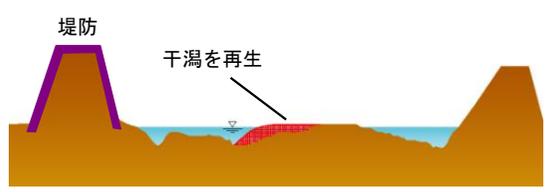


河口干潟を利用した生物観察会



干潟再生

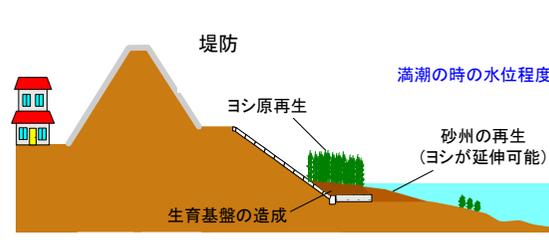
・砂を投入して干潟を造成し、渡り鳥やアサリ等貝類など多様な生物が生息しやすい環境となります。



豊川河口域
H26. 08撮影
(干潟創出後の豊川河口域)

ヨシ原

・水際のヨシ原を再生し、オオヨシキリなど多様な生物が生息しやすい環境になります。



豊川放水路5.9k付近
H29. 9撮影
(ヨシ原創出後の豊川放水路)

※大臣管理区間以外は、県・市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

凡例	
 	治水メニュー
 	グリーンインフラメニュー
 	大臣管理区間

更新予定

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：66%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



2市町村

（令和6年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設

（令和5年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 8箇所
（令和6年度実施分）

砂防関連施設の
整備数 0施設
（令和6年度完成分）
※施行中 8施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



2市町村

（令和6年7月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想
定区域 2河川
（令和6年9月末時点）

内水浸水想
定区域 2団体
（令和6年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 439施設
土砂 44施設
（令和6年9月末時点）

個別避難計画 3市町村
（令和5年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○設楽ダム（設楽ダム工事事務所）

- 洪水被害と濁水被害から人々の暮らしを守るため多目的ダムとして設楽ダムを建設。
- 令和6年11月よりダム本体建設工事に着手。



【令和7年度実績】

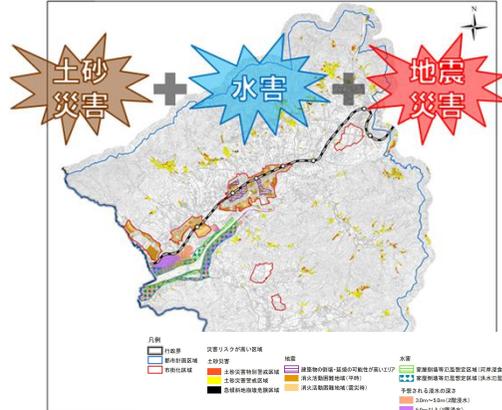
付替道路工事、本体関連工事、貯水池斜面对策工事、貯水池内伐採を継続して実施

○農業用排水機場の整備（豊橋市）

- 農業用排水機場を整備し、農地のたん水被害や市街地の浸水を未然に防止することにより、農業経営の合理化と民生の安定を図る。



被害対象を減少させるための対策



○立地適正化計画における「防災指針」の策定（新城市）

- 防災の観点を取り入れたまちづくりを加速化させるため、立地適正化計画において「防災指針」を策定。
- 防災まちづくりの将来像を掲げるとともに、防災・減災対策を定めることで、都市の総合的かつ計画的な災害対策を講じる。

○立地適正化計画関連施策（豊川市）

- 洪水浸水想定区域等の災害想定区域に家屋を所有して居住している市民に対して、安全な都市機能誘導区域に家屋を取得して転居する場合に補助金を交付。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

区分	カテゴリ	No	内容	事業主体	実施する目標期間			令和8年度末の進捗状況
					第1期 (R7.1～R7.3)	第2期 (R7.4～R7.6)	第3期 (R7.7～R7.12)	
ソフト対策	I 情報提供 (用天時)	1	浸水想定水位等の設定	国交省	(検討)	(設定)	(必要に応じて見直し等)	実施済
		2	CCTVカメラ・物探水位計等の設置	国交省	(設置)			実施済
		3	メールの配信やアプリによる情報提供	国交省 豊橋市	(開発・試稼運用)	(運用)	(必要に応じて改修等)	実施済
		4	市街地・農地地区の浸水状況把握	豊橋市 豊川市	(試験運用)	(設置)	(必要に応じて改修等)	実施済
	5	浸水想定情報等の設置	豊橋市 豊川市	(設置)	(設置)		実施済	
	6	情報提供(平常時)	国交省	(作成・提供)			実施済	
	II 情報提供 (平常時)	7	ハザードマップの作成・公開	豊橋市 豊川市		(作成・公開)		実施済
		8	防災情報の周知(事前調査の実施)	国交省 豊橋市 豊川市			(要請に応じて事前調査を実施)	実施済
		9	情報伝達手段の実施	国交省 豊橋市 豊川市			(必要に応じてタイムサインの見直し等)	実施済
	III 自動・共働 - 公助による 防災対策	10	農機具の保管庫や倉庫の一時的な活用等の確保及び避難ルートを検討	国交省 豊橋市 豊川市		(ハザードマップへの反映)		実施済
		11	避難場所の確保等の実施	豊橋市 豊川市			(必要に応じて避難場所の見直し等)	実施済
IV 他の事業 主との連携	11	建築確認申請時の指導(排水設備等を含む)	豊橋市 豊川市				実施中	
ハード対策	V 小堤			国交省	(活用・設計)	(小堤及び関連施設の新設)		

○霞堤地区浸水被害軽減対策計画（愛知県、豊橋市、豊川市、豊橋河川事務所等）

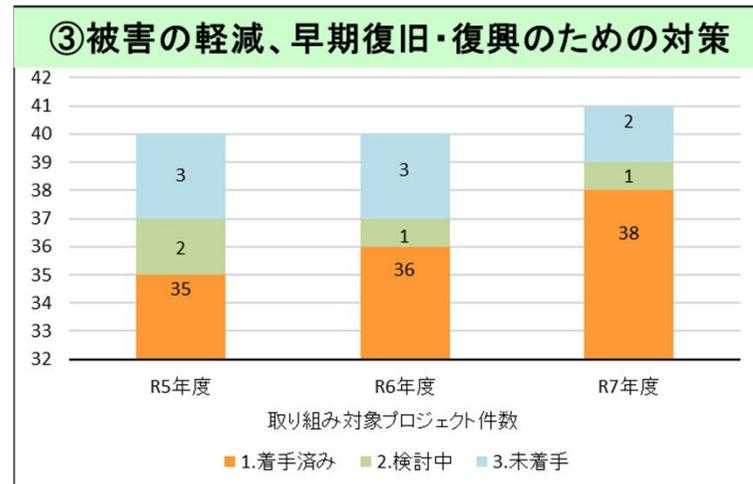
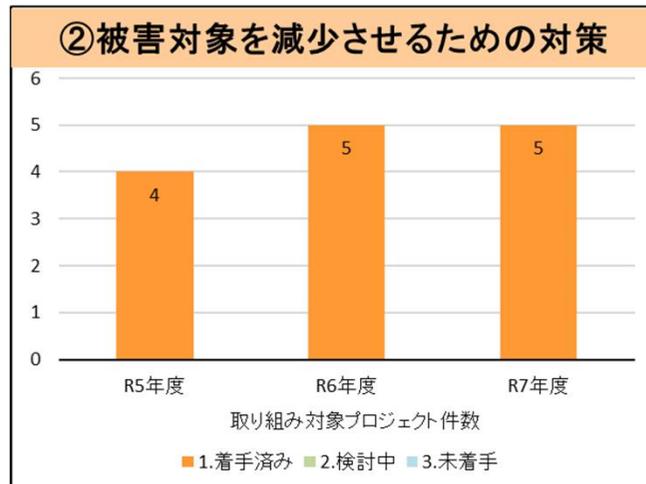
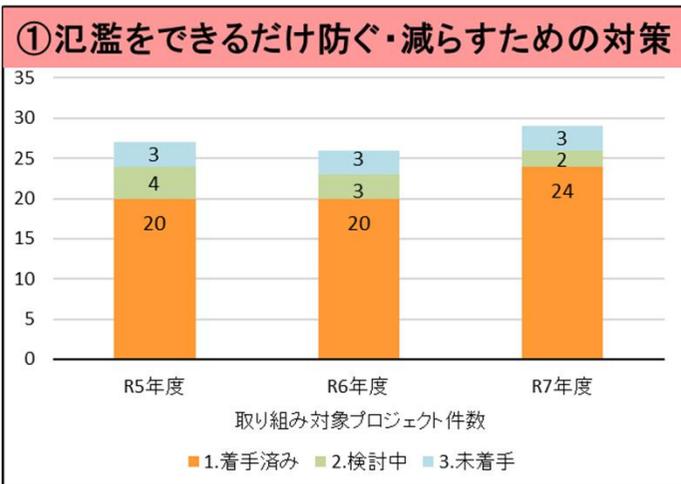
- 豊川霞堤地区における浸水被害の軽減を図るため、平成28年に対策計画を策定。
- 霞地区内の浸水状況等の情報提供などのソフト対策や、浸水頻度・浸水面積・浸水時間を軽減することができるハード対策を実施。
- 定期的に進捗管理を行い、効率的かつ効果的な浸水被害軽減を目指す。

【令和7年度実績】

作業部会(R7.6)、地元説明会(R7.7、R7.8、R7.12)、協議会(R8.2)に実施。

豊川水系流域治水プロジェクト2.0の取り組み状況

流域治水対策の取組状況アンケート結果（R8.3月時点）



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、29件中24件が着手済み、29件中2件が検討中。
- 豊橋市ではポンプ場、雨水幹線などの整備が完了し、雨水管理総合計画の作成を開始。
- 豊橋市・豊川市・新城市・設楽町で浚渫工事を実施。

被害対象を減少させるための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、5件中5件が着手済み。
- 豊橋市は継続して高台におけるまちづくりの推進（土地区画整理事業）。
- 豊川市では災害想定区域に家屋を所有して居住している市民に対し、都市機能誘導区域に転居する場合に補助金を交付。
- 新城市では立地適正化計画を令和5年4月に公表済み。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

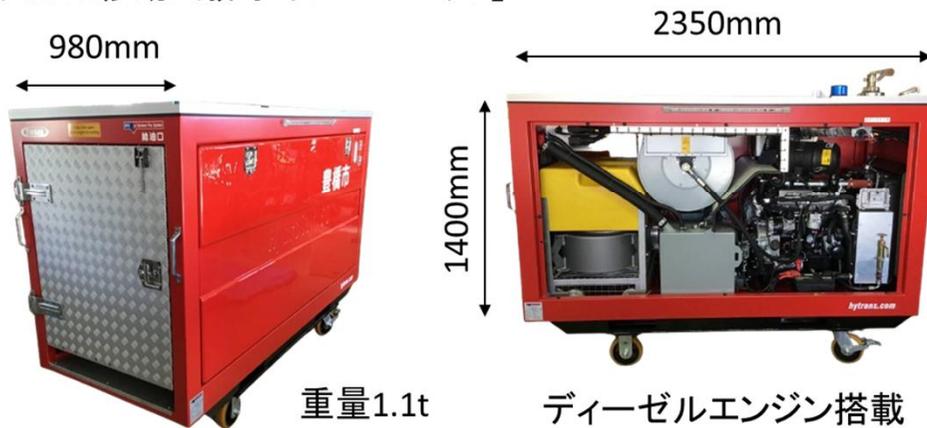
- 各機関の取組対象プロジェクトについて41件中38件が着手済み、41件中1件が検討中。
- 豊橋市・豊川市・愛知県・豊橋河川事務所では「霞堤地区浸水被害軽減対策計画」に基づいた、ソフト・ハード対策を実施中。
- 豊橋市・豊川市・新城市では継続して出前講座・防災講演会を実施。

【豊橋市】流域治水対策の取組事例 ～移動式排水ポンプの導入～

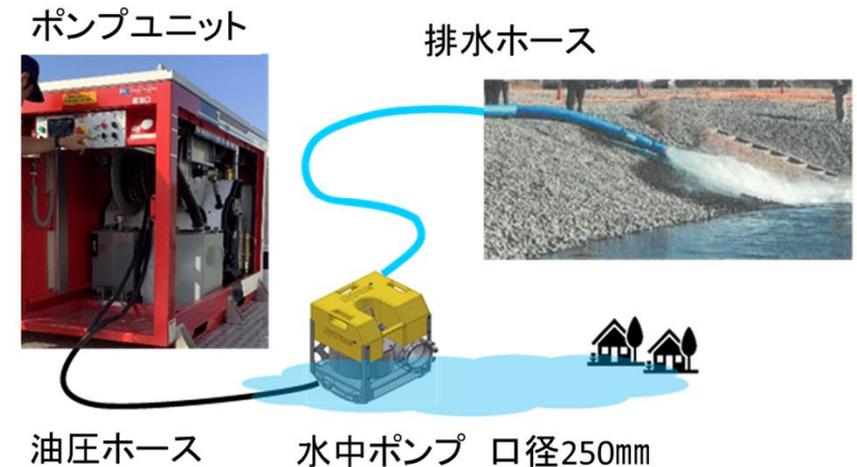
- 浸水被害の軽減、早期復旧・復興のためのソフト対策として、『緊急自然災害防止対策事業債』を活用し移動式排水ポンプを導入。
- 移動式排水ポンプは、操作盤、エンジン、ポンプの各装置が一体化・小型化されており、2tトラックに積載可能であり、15m³/分の排水能力を要し、迅速な排水作業による安全度が向上する。

◆取組内容

【導入した移動式排水ポンプユニット】



【排水作業イメージ】



【排水訓練実施状況 令和7年8月末】



排水ホース吐水状況



フロート式水中ポンプ着水状況



ポンプユニット2tトラック積載状況

- 令和7年7月に納品、同年8月に講習、操作訓練を実施。
- 出水期前に実施する水防訓練において、移動式排水ポンプを活用し、訓練を行い緊急時に備える。

【豊川市】流域治水対策の取組事例 ～出前講座の実施(土砂災害について)～

- ・市としては『安全・安心で「暮らしやすさ第一豊川市」を水害から守る流域治水対策』として、国、県、市が一体となって、“流域治水”を推進したいと考えています。
- ・その方法のひとつが“出前講座の実施”です。水災害から身を守るための行動について、市職員が講師となって直接伝えることにより、自主的な避難行動に対する意識を高めてもらうことを目的としています。
- ・令和7年度は、豊川流域における豊川特別支援学校一宮校舎の生徒の方々に対して出前講座を実施しております。

◆取組内容

【実施概要】

日時 : 令和7年9月18日(木) 13:15～14:30

会場 : 豊川特別支援学校一宮校舎

出席者: 生徒・教員 105名

豊川市建設部道路河川管理課職員 4名

【講座内容】

土砂災害から自分や家族を守るための、準備や行動について

- ・土砂災害について知る
- ・マイ・ハザードマップ作成
- ・マイ・タイムライン作成
- ・まとめ



◆取組効果

出前講座の効果

災害とは何か。どんな場所がどのように危ないのか。避難するにはどのようにすればよいのか。などの疑問点を理解し、命を守るために心がけることなどを考えるきっかけをつかんでもらう。

【新城市】流域治水対策の取組事例 ～森林整備による水源涵養～

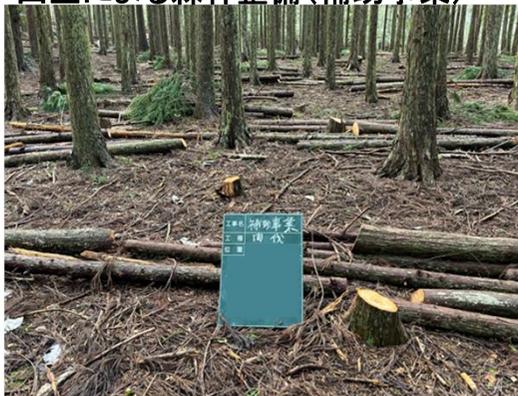
- 市では、森林整備の推進により、森林の公益的機能のひとつである水源涵養機能を向上させることで、流域治水の推進を図っています。
- 民間による林業活動を支援する補助事業と、市が工事として発注する整備事業の両輪で市内全域の森林整備を推進しています。
- 普及啓発の取組として、森林における水源涵養機能の学習を盛り込んだ森林環境学習を、市内小学校を対象に継続して実施しています。

◆取組内容・効果

市内雁峰山における間伐整備



山主による森林整備(補助事業)



- 適切な森林整備を推進し、森林の持つ公益的機能を向上させることで、水源涵養機能や土砂災害防止・土壌保全機能を向上させ、流域の防災機能全体の強化を図ります。
- 国県費補助をはじめ、(公財)豊川水源基金の助成事業や森林環境譲与税など多様な財源を活用し、積極的な整備を推進しています。

保育(除伐)を行った広葉樹林



森林環境学習における水源涵養実験

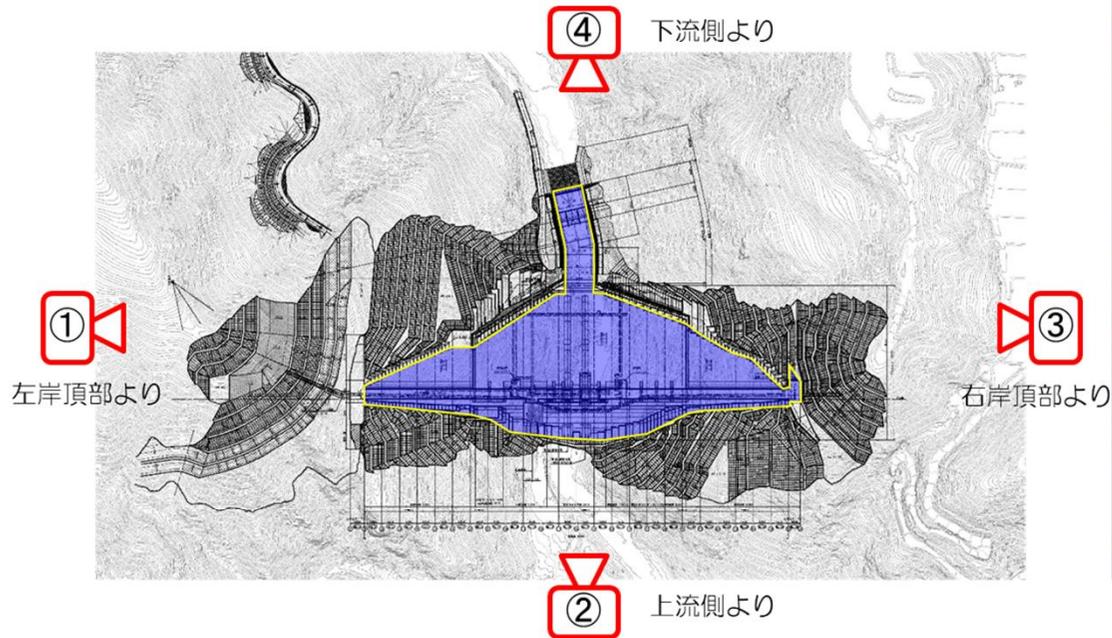


◆実施状況

(単位:ha)	R6実績	R7見込	R8計画
間伐	90.26	82.33	108.00
下刈	2.44	—	4.65
枝打	8.04	4.98	4.00
除伐	34.17	22.56	26.10
植栽	—	1.84	1.35
森林環境学習 実施学校数	6校	6校	6校

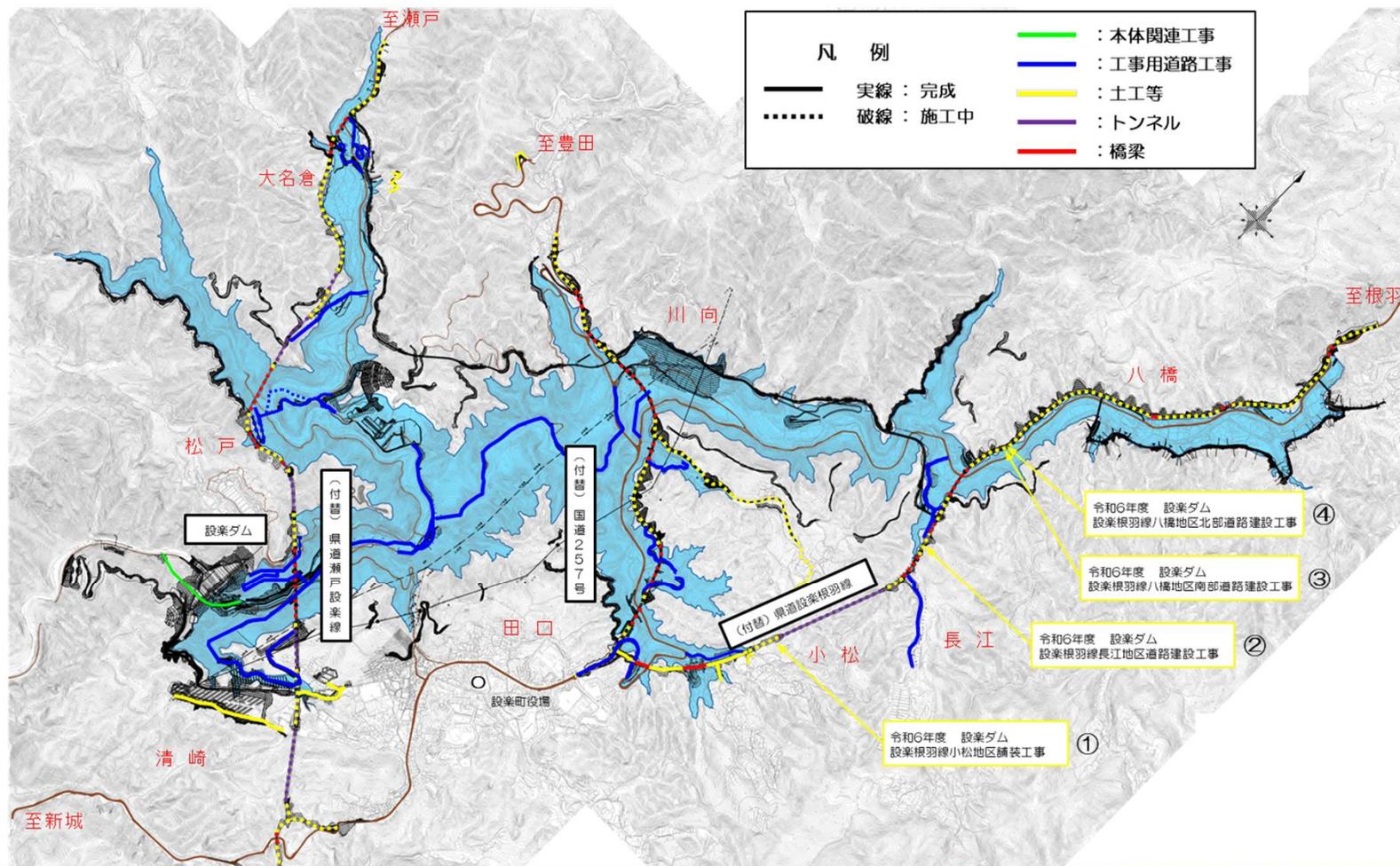
◆設楽ダム建設事業の進捗状況(令和8年1月下旬)

設楽ダム平面図



【設楽ダム工事事務所】流域治水対策の取組事例 ～設楽ダム建設～

◆設楽ダム建設事業の進捗状況(令和8年1月下旬)



設楽根羽線④八橋地区北部道路建設



設楽根羽線③八橋地区南部道路建設



設楽根羽土工3工区から1号トンネル



設楽根羽線1号トンネルから4号橋



設楽根羽線①小松地区舗装

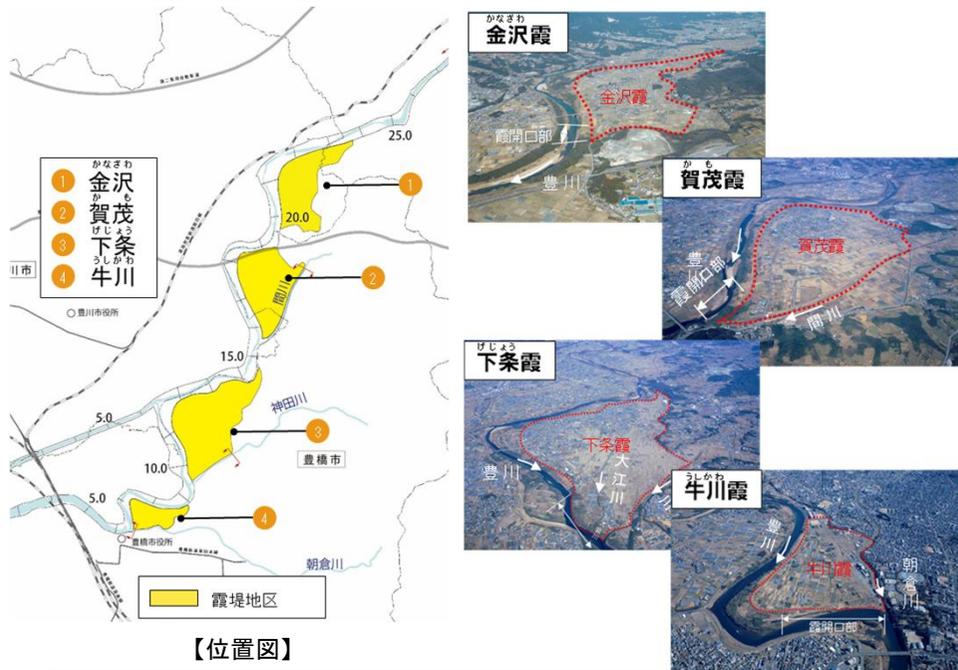


設楽根羽線②長江地区道路建設

【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～霞堤対策～

- 平成28年に豊橋河川事務所、愛知県、豊橋市、豊川市、豊川改修期成同盟会、豊川改修促進期成同盟会で構成された豊川霞堤地区浸水被害軽減対策協議会において「豊川霞堤地区浸水被害軽減対策計画」が策定され、霞堤対策を推進しています。
- 豊川霞堤地区における浸水被害の軽減を図るため、緊急的かつ効果的なソフト対策・ハード対策を実施しています。

◆豊川に現存する4霞堤地区



◆ソフト対策

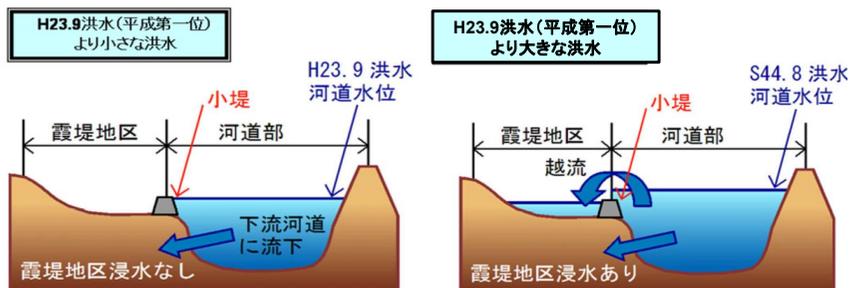
簡易水位計や回転灯の設置・運用を行い、避難や冠水地点の通行止措置等に利用します。



簡易水位計活用状況
(霞堤地区 防災情報ポータルサイト)

◆取組効果

平成最大の出水である平成23年9月洪水が再来しても外水氾濫しない高さで小堤を整備することにより、これより小さな洪水での被害を防ぎます。



【小堤整備後の河道断面イメージ】

◆ハード対策

小堤及び樋管等の整備を行います。



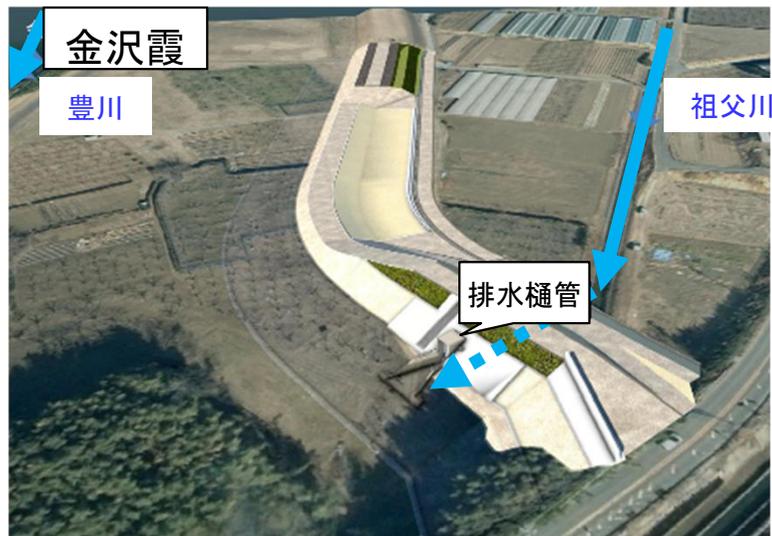
【賀茂地区整備イメージ※】

※検討中のものであり今後変更になる可能性があります

【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～霞堤対策～

- 金沢霞においては、令和5年度より工事用道路の整備に着手しています。現在は樋管工事に着手し、樹木伐採を行っています。
- 賀茂霞においては、令和5年度より樋管工事に着手し、令和6年度に樋管の躯体部分が完成しています。

◆実施状況



霞堤対策(完成イメージ図)



霞堤対策(工事実施状況)



霞堤対策(完成イメージ図)



霞堤対策(工事実施状況)

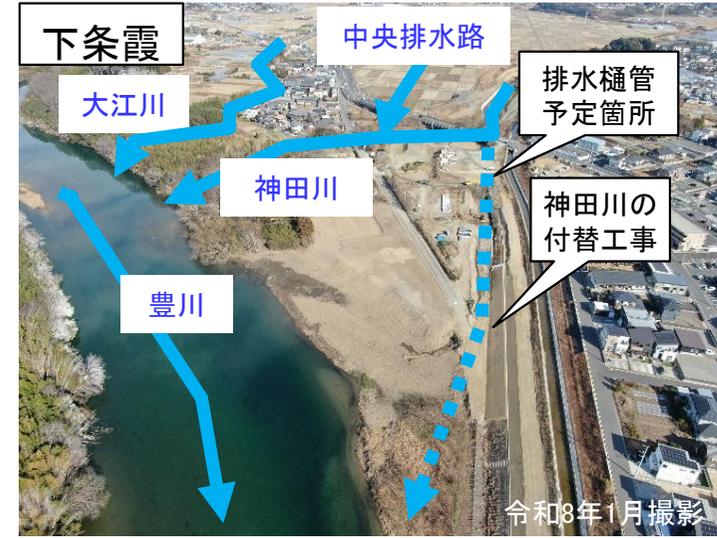
【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～霞堤対策～

- 下条霞においては、令和6年度より支川神田川の付替に伴う護岸整備に着手しています。
- 牛川霞においては、令和7年度に工事用道路の整備に着手しています。

◆実施状況



霞堤対策(完成イメージ図)



霞堤対策(工事実施状況)



霞堤対策(完成イメージ図)



霞堤対策(工事実施状況)

【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～住民の主体的な避難行動を促す取り組み～

- 地域住民への啓発活動により、流域治水を更に推進するため、浸水体験資料(浸水体験VR)を作成。
- 水害時の避難行動をゲーム感覚で体験できるように、避難行動の選択肢や避難タイミングを複数設定し、体験者が選択できるシステムを構築。
- 体験終了時には、選択した避難行動のフィードバックを設け、避難行動や防災意識の向上につながるように工夫しています。

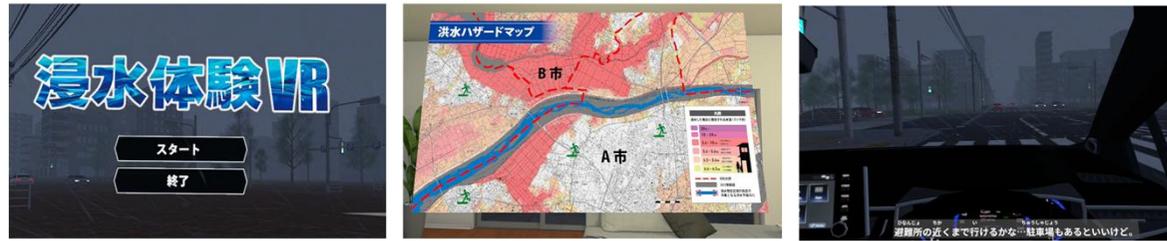
◆取組内容

シナリオの検討

台風襲来時のマイタイムラインに沿った水害事象、個々人の避難判断、避難行動に対するシナリオを設定。

避難行動を選択した後の結末(エンディング)は、避難行動や避難タイミングで差を設け、適切な避難行動の選択・逃げ遅れ防止に繋がるようにしている。

ゲーム感覚で体験できるシステム・グラフィックの構築



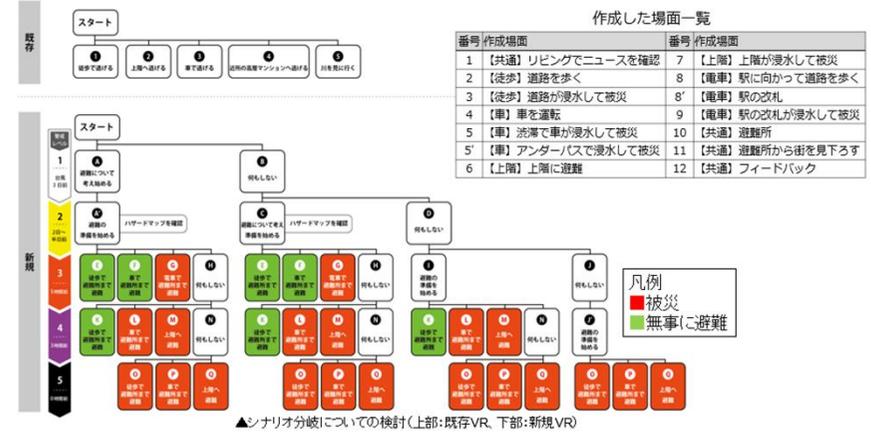
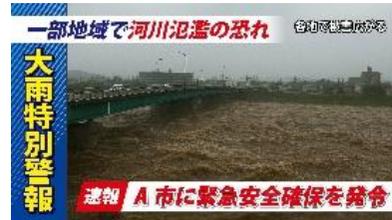
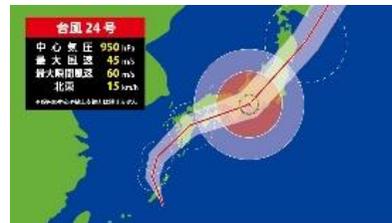
▲スタート画面

▲ハザードマップの確認シーン

▲車で避難するシーン



▲テレビでニュース映像を表示(警戒レベルに合わせた気象情報を表示)
(右上は警戒レベル3、右下は警戒レベル5のニュース映像)

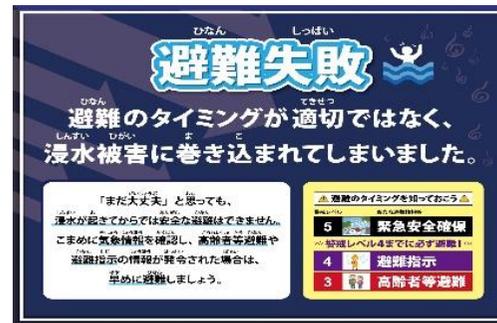


▲シナリオ分岐についての検討(上部:既存VR、下部:新規VR)

フィードバック資料の導入



▲避難成功



▲避難失敗(徒歩で避難)

防災展での活用状況



イオンモール岡崎での体験状況
(岡崎防災展2025)



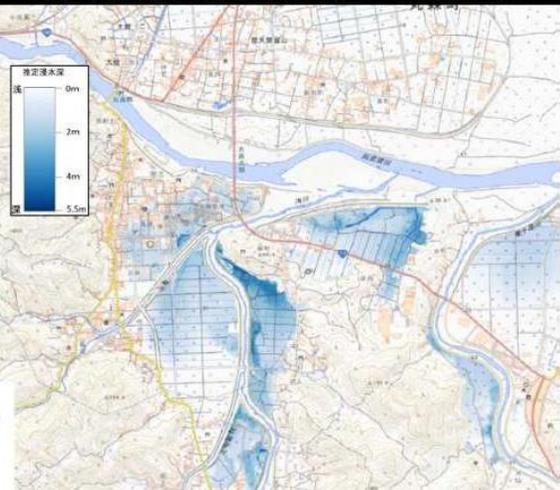
イオンモール豊川での体験状況
(あいち防災フェスタ)

【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～水害リスク情報の空白域の解消～

- 令和元年東日本台風では、堤防が決壊した71河川の約6割の43河川が洪水浸水想定区域の指定義務がない中小河川であり、全国的に水害リスク情報の空白域解消が課題であったため、水防法の改正も踏まえ、豊橋河川事務所では豊川の支川である間川(直轄管理区間)の洪水浸水想定区域図を作成しています。(令和7年度末に公表予定)
- 現在は豊川及び豊川放水路において、洪水浸水想定区域図(想定最大規模)を作成・公表しているため、それに間川の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)を重ね合わせ、水害リスク情報の空白域を解消します。

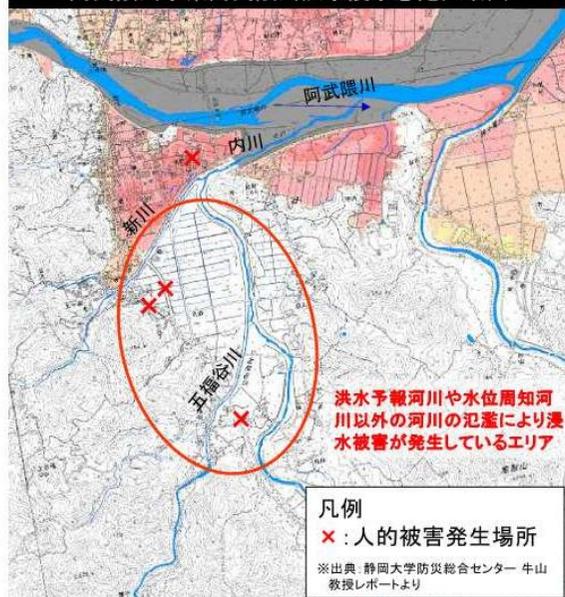
◆水害リスク空白域の課題

東日本台風浸水推定段彩図(国土地理院作成)

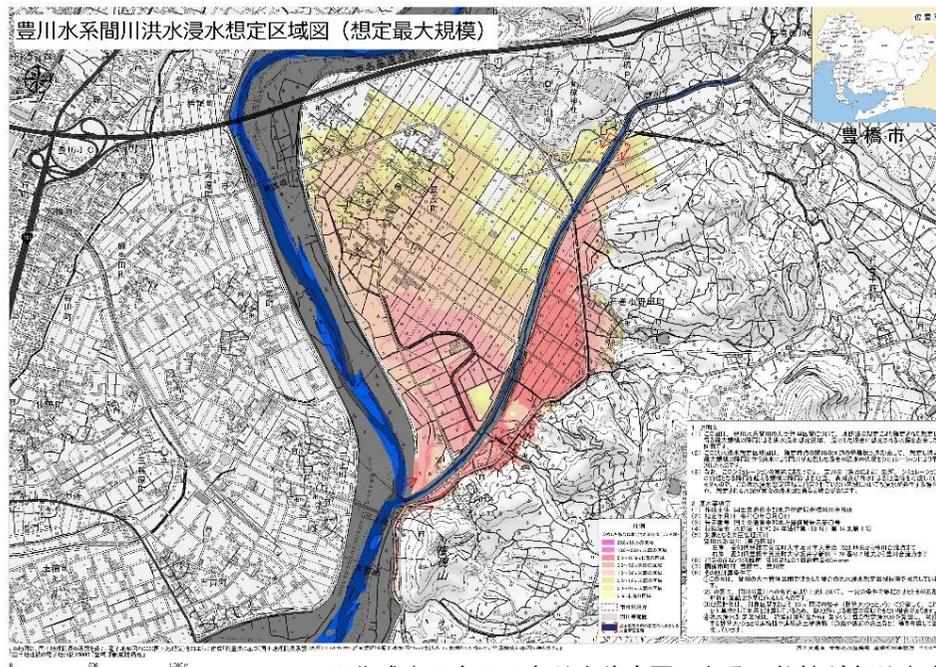


※10月14日18時時点で国土地理院で収集した情報と標高データを用いて浸水範囲における水深を算出し、深さごとに色別に表現した地図。実際に浸水のあった場所でも表示されていない場合、浸水していない場所でも浸水範囲として表示されている場合がある。

阿武隈川水系阿武隈川洪水浸水想定区域図



◆作成中の間川の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



※作成中のものであり今後変更になる可能性があります

◆公表中の豊川及び豊川放水路の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)

